

たむぎやま

平成 24 年
3 月 20 日発行

新潟県
田麦山地区館

一年間を振り返って

地区協議会副会長 大淵 賢

一年間を振り返り返りまして、長く感じながらも、短い一年間でもありました。

任期中は、各正副総代並び、大勢の皆様方からの御協力を頂きましたことを改めて御礼申し上げます。

ご存知の通り、協議会は皆様方の会費により運営され、主な事業内容は敬老会、運動会、防災訓練、収穫祭、雪祭り等々です。

敬老会では、人生の大先輩でもある方々の力強いカラオケを聴き、鼻たれ小僧の自分としては、皆様方の年代まで元気で・・・頑張らねばと自分に言い聞かせました。

運動会では、小さい子供たちが元気よく走っていたことが、田麦山の未来を救ってくれるように思えました。

防災訓練及び収穫祭では、約半数の二百十名の参加を頂き、今年の危機管理意識が形として表れたものと感じます。

賽の神&雪祭り、雪の中公民館員の方々のご苦労に、ただただ頭が下がる思いです。

又、今年の大形地域のローソク飾り、随分気合が入った飾りだと感じたのは自分だけでしょうか？

住む人が年々減る一方の現状ですが、この土地で少しでも楽しく、繋がりをもち、暮らせるように、今後もひとつひとつ努力を重ねて行きたいと思っています。

大変ありがとうございました。

卒業を迎えて

水落鈴香（久蔵）



3月5日、9年間という長い義務教育が終わり初めての卒業生で、同級生のみんなどは4年間ずっと一緒に過ごしてきました。中学校での思い出は数え切れないほどあります。体育祭、合唱コンクール、遠足、球技大会。私たちにはクラス替えがありませんでしたが、だからこそ、みんなが笑って、泣いて、怒って、喜ぶことができたんだと思います。みんなと初めて会った時、あんなにぎこちなかった私たちが今では「大切な仲間」へといつの間にか変わっていました。こんなに素敵な仲間たちと離れるのはすごく寂しいです。でも、高校ではもっと楽しい仲間とすてきな思い出を作れるはずですよ。離れてもみんなのことは絶対に忘れません。本当にありがとうございます！そして、次にみんなで会う時にみんながどんな姿になっているか楽しみにしています。

十二様の祭のことなど

田中 桜井兵治

三月十二日、田中会館で十二講が行われました。十二様は山の神で、弓矢を奉納したり、弓打ちをし、共同飲食をして山の恵みに感謝したり、山の仕事の安全祈願をする祭りです。現在では弓矢については怪我をする危険のため行われていません。

十二様は魚沼ではポピュラーな神様で多くの人に親しまれています。しかし、明治維新で様々なものが変わりました。十二様のように小さな神様の整理統合が進められ、キリスト教邪宗門禁止、廃仏毀釈、神仏分離、政教一致政策が断行されました。

ところが、外国からの抗議でキリスト教の信仰は認めざるを得なくなりました。国内でも仏教勢力の反対でこの信仰は復活しました。山伏のお寺も加持祈祷することが復活しました。慶応4年出されたキリシタン禁制高札は明治6年に撤去されました。

熊野堂は熊野神社になり、のちに村社に昇格し、十二社は神社に合祀されました。地藏様の首が刎ねられこともあったのも、小さな神仏を統合したり、仏教を廃止する動きに対応しています。

田中には釈迦堂と阿弥陀堂、郷倉があると江戸時代の地図に載っており、村明細帳にもあります。さらに我が家には釈迦堂棟札が残っています。小千谷には阿弥陀堂が残っている地域があります。釈迦堂阿弥陀堂が明治維新のとき廃止されたものかどうか証明はできませんが、江戸時代にはさまざまな神仏に村が、村人が守られ、ゆるやかな時間が流れていたに違いありません。（県文化財保護指導員）



一年間を振り返って

大形総代 櫻井 正広

平成二十三年は地震・豪雨・豪雪と災害に翻弄された一年でしたが、班長さんや様々な役員・集落の皆様からご協力いただき、各種事業・行事を計画どおり実施することができましたこと、感謝申し上げます。

今年度は、長岡市川口支所や地区協議会、大形集落からの情報を班長会議を通じ、できるだけ早く知らせるように努力したつもりですが、文書の回覧・配布だけでは難しい部分があることを痛感しました。

七月末の新潟・福島豪雨災害については、被災状況の把握や市の助成制度の説明の方法、その他、集落全体で取り組む事業等の相談・打合せ、市への要望項目等、班長会議ですべてを決めて良かったのかと感じています。

市や地区と集落の間に立つと、情報の伝達や、皆さんからの意見・要望の把握は、もっと早く簡素に集約できたほうがより良いと考えています。

今後、これらを検討したいと思しますので皆さんの、ご協力をお願いします。

二年間を振り返って

前原総代 大淵正博

一年目は、市町村合併の初年度のスタートで自分自身不安でした。幸いにも行政の中で、自然災害（豪雪を除く）が無い年でありました。ただ、猛暑により農作物の出来が悪く、苦勞されたのではないかと思われます。昨年より引き継ぎの地域復興デザイン策定事業、田麦山地区協議会による行事等、大変忙しい年でした。

二年目は、三月十一日に発生した東日本大震災と東京電力福島第一原発事故から長野県北部地震、新潟・福島に発生した集中豪雨、紀伊半島を中心に大きな被害が出た台風十二号など日本列島に災害が多い年でした。

集中豪雨により、川口で見たこともない西川口（川岸町）の学校周辺を中心に発生した水上がりでした。前原地域では、中越大地震より被害が大きい小千谷・川口大和線県道（源太山）の土砂災害、前原堰水路には土砂が混入し、稲穂が咲く一番水が必要な時、水が来ない等被害が大きく、今年に復旧していません。今年の豪雪等大変な一年間でした。

幸い原発で心配された放射能もなく、農作物も集荷でき安心してるところです。今年こそ災害の無い平穏な年にしたいものです。

役員の任期を終了するにあたり、前原地域並びに地区民皆様、大変お世話になりました。二年間どうもありがとうございました。

一年をふりかえって

田中総代 森山和雄

役を受けて、一年が過ぎようとしております。

ふりかえって見ると、大変な一年でした。東日本大震災、大雨、大雪と一年中災害の年でした。津波の恐ろしさを宮城県石巻の大川小学校に義援金をとどけに行った時に見てきました。学校の周りに集落があったと聞き見わたすと。家の基礎の部分が少し残っているだけ、後は家ごと津波がのみこんでいったと聞き、津波の恐ろしさに呆然としました。

また、夏の大雨土砂災害、冬の大雪と皆様方も大変な一年だったとおもいます。一年間の行事ももう少しで終わります、皆様方の協力ありがとうございました。新年度は良い事がたくさんあるように願うばかりです。

「一年を振り返って」

大谷地総代 森山 鉄也

この冬は、除雪作業に追われた年でした。春の雪どけが待ち遠しいです。

二年前、大谷内の総代に決まったときは不安だらけでした。ちょうど十年前、副総代で祭を経験して大変さがわかるだけに祭が当たる年だけは避けたいと思っていたからでした。人数減少により前年から、田中地区と合同で開催です。六月より取りかかり七月の川口祭は百年に一度の大水害で中止となり、我が家も玄関先の相川川が増水し夜中に集会所に自主避難しました。

熊野神社の本祭は、神社に入るや否や万灯が消えることなくしつかり灯り助けてもらいました。また、慰労会も合同でやり普段話ができない方との交流も意義がありました。

今年、地震、水害、大雪、そして止まらない少子高齢化での田麦山地区もその波が押し寄せ、中には「田麦山の終わりが始まる」という人もいました。そんな中、協議会のメンバーとして田麦山の活性化のために立ち上げた「連絡会」に参加し、様々な田麦山の未来を語り合いました。まだまだ先の見えないことだらけですが、一人ひとりがどんな田麦山にしたいのか、なったらよいかを他人事ではなく、真剣に考える時がきたのだと強く思った年でした。

『編集後記』

二年続きの大雪。毎年覚悟はできているものの、毎日降り続く雪にはまいりましたね。しかし、ようやく春の足音が聞こえ始めました。

一年間ご愛読ありがとうございました。皆様のご期待にそえたでしょうか。新聞の内容や今後の活動等ついて模索しながら進めてまいりましたが、皆様からの忌憚のないご意見もお待ちしております。

最後になりましたが、原稿依頼に快く協力していただいた皆様にお礼申し上げます。

